

【新潟市と黒埼町の合併史】

新潟市		黒埼町	
合併年月日	事項	合併年月日	事項
現在	西蒲原郡中野小屋村、赤塚村を編入合併	現在	黒埼町制を施行
昭和36年6月1日	西蒲原郡中野小屋村、赤塚村を編入合併	昭和48年2月1日	黒埼町制を施行
昭和35年1月1日	西蒲原郡内野町を編入合併	現在	黒埼町制を施行
昭和32年5月3日	中蒲原郡大江山村、曾野木村、両川村を編入合併	現在	黒埼町制を施行
昭和29年11月1日	北蒲原郡南浜村、濁川村、西蒲原郡坂井輪村を編入合併	現在	黒埼町制を施行
昭和29年4月5日	北蒲原郡松ヶ崎浜村を編入合併	現在	黒埼町制を施行
昭和18年12月8日	中蒲原郡石山村、鳥屋野村を編入合併	現在	黒埼町制を施行
昭和18年6月1日	中蒲原郡大形村を編入合併	現在	黒埼町制を施行
大正3年4月1日	中蒲原郡沼垂町を編入合併	現在	黒埼町制を施行
明治22年4月1日	関屋村古新田を合併し市制施行	現在	黒埼町制を施行

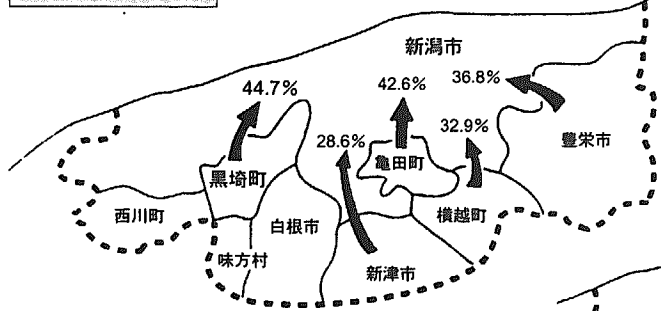
このような中で新潟市は、県都として、また圏域の中心都市として、県と圏域の発展を先導する都市としての役割を今後とも果していくことが必要であり、経済や教育・文化、保健・福祉など高次都市機能のさらなる集積に努め、将来的には政令指定都市をも展望しつつ「環日本海の中核拠点都市づくり」を進めていきます。

は、合併を行うことで一つの自治体として、より広い範囲で総合的観点に基づく保健・福祉・環境・安全、教育・文化、産業や都市基盤の整備、向上に努め、均衡ある発展を図りながら、環日本海の中核拠点都市としての一体的なまちづくりを行います。

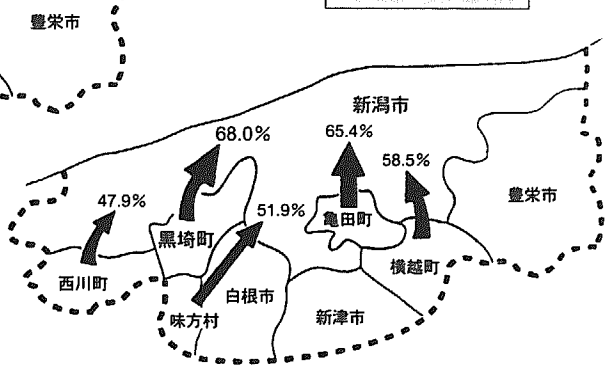
2 黒埼町地域の役割

黒埼町地域は、県都新潟市の南部に位置し、新潟平野の緑豊かな田園

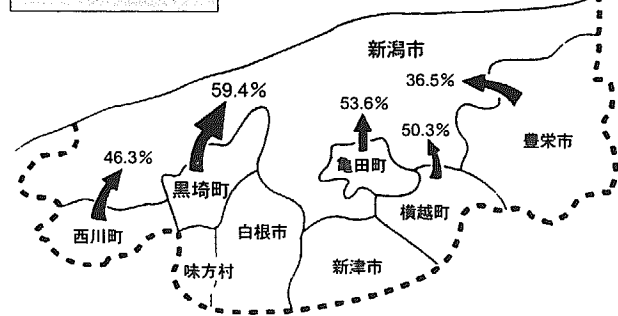
新潟市への通勤率



新潟市への通学率



新潟市への購買率



新潟市への通勤率・通学率：平成7年国勢調査
他の市町村の15歳以上の就業者及び通学者が、新潟市へ通勤、通学する割合。
新潟市での購買率：新潟県「新潟県広域商圏動向調査報告書」平成11年3月
他の市町村の消費者が、新潟市で買い物(全品目)をする割合。上位の5市町村を記載。

で多くの新規行政制度が適用されず、建設計画では、合併しない場合の町総合計画よりも多額の投資が行われ、生活基盤の整備がそれだけ早く実現します。

④ 消防・救急、防災体制も合併で大きく変わります。

阪神・淡路大震災等を契機として、消防・救急、防災面の充実の必要性が強く再認識されるようになりました。

消防に関しては、現在、黒埼町は最大で消防車3台の出動体制ですが、合併後は最低8台、最大20台の出動体制に強化されます。(消防団関係を除く)

救急に関しては、現在は救急車2台体制ですが、合併後は複数のステーションの中から一番近くの救急車が駆けつけるようになり、搬送先も市消防局と医療機関のオンライン体制で、いち早く搬送先が決定され、所要時間の短縮が実現します。

万一、大規模な災害が発生した場合も、従来は新潟市と黒埼町で協定を結んだ自治体同士の防災協力であったものが、今後は市の防災体制の中で、より一体的で効果的な対策が行われ、施設面でも、防災無線の整備や耐震性貯水槽(飲料水兼用)の整備などが進みます。

(2) 合併の歴史と両市町の一層の発展
そもそも、新潟市は過去に2町12

村と合併し、黒埼町は5村が合併し、それぞれが発展してきた歴史があり、両市町がここに合併を行い共にさらなる発展をめざすことは、歴史の流れにかなうことでもありません。

新潟市は、中核市に指定され、日本海側最大の人口を擁する都市となつていますが、合併を行うことで、さらに活力を増し、名実共に環日本海の中核拠点都市として一層発展したいと考えています。

黒埼町にとっては、合併に伴う多数の新規行政制度の適用や、合併建設計画の実施などによって、合併しない場合よりも速やかに住民福祉の向上と地域発展を実現することができず、新しい新潟市の一翼を担うことで、より大きな発展が期待できます。

III まちづくりの基本方針

1 新しいまちづくり

新潟市と黒埼町を含む新潟都市圏は、行政、経済、教育・文化などの諸機能が集積している圏域の特色を活かしながらその機能を強化し、世界に開かれた環日本海の中核拠点圏域として発展することが期待されています。

【北部地区】

新潟市の中心部に近く、インターチェンジを有し利便性の高いこの地区は、土地区画整理事業による宅地開発などにより急速に市街化が進行したために、道路・公園・下水道などの生活環境の整備が求められています。

したがって、この地区の土地利用は、都市計画用途に整合した土地利用を基本としながら、生活環境の整備を進めるとともに、今後も利便性を生かした土地区画整理事業などでまちづくりを進めます。

【中部地区】

さらに広域観光の拠点性の高い「新潟ふるさと村」及びその周辺については、隣接の河川敷公園の整備などを進めることで、商業・観光地としての魅力の増大に努めます。

東に信濃川とその支流の中ノ口川が流れ、西には北陸自動車道が通っているこの地区は、古くから商業、文化、住宅の集積した、黒埼町の中心として発展してきた地区であり、体育館、図書館などの公共施設も多くありますが、今後は、道路・公園・下水道などの生活環境の整備が求められています。

したがって、この地区の土地利用は、都市計画用途に整合した土地利用を基本としながら、生活環境の整備を進めるとともに、黒埼町地域の

3 黒埼町地域各地区的特性と土地利用の方針

土地利用に当たっては、地域の社会的、経済的、自然的条件等を配慮しながら、生活環境の確保と均衡ある地域の発展を図ることを基本とし、環日本海の中核拠点都市新潟市の中で農業と調和のとれた都市機能を持つ地域拠点、陸の玄関口としてふさわしいまちづくりをめざし総合的かつ計画的に行うことが必要です。

それぞれの地区の特性と、土地利用の方針は次のとおりです。